JICA 開発教育コラム 2023

学校から地球の未来へ 5つのアイディア

アイディア④

社会に開かれた学びの機会づくりを目指して

2023年度 10月号

現代の学校教育では、「社会に開かれた教育課程」が求められています。今回は、国際理解教育/ 開発教育につながる取り組みの中で企業と連携した活動を実践してきた鎌倉市立西鎌倉小学校の川坂俊一先生にお話しを伺いました。

<執筆者> 川坂　俊一　先生

鎌倉市立西鎌倉小学校教諭
2019　年度　国際理解教育/開発教育指導者研修　参加者
2021年3月まで所属していた鎌倉市立小坂小学校にて、難民キャンプに子供服を送る活動をはじめ、社会と連携した様々な授業や活動を実施。

Q.国際理解教育/開発教育の授業に、企業の実施する教育活動やプロジェクトを活用することにハードルを感じている先生も多いと思います。その中で、川坂先生が思う活動の意義はどのようなことですか？

子どもたちのアイディアを実現させるには、予算や環境上の制約が生じることがあります。しかし、**企業のリソースや教育活動を活用することによって、子どもたちのアイディアや提案を実際に社会を通して実行することができます**。活動を通して課題や困難な状況に直面することもありましたが、その壁を乗り越え、教師の想定を超えて大いに成長していく姿を見ることができ、この成長こそがこの活動の大きな意義だと感じました。

TIPS!

鎌倉市には「鎌倉スクールコラボファンド」の仕組みや、地域と学校が協働し、社会に開かれた教育課程の実現を目指す「鎌倉版コミュニティ・スクール」といった制度があります。川坂先生もこれらの制度を積極的に活用され、外部講師を招いたり、町内会の協力を得て活動を展開しています。
あなたの街でもさまざまな制度があるかもしれません。文科省のHPでは全国の取り組み事例やプログラムについて紹介していますので、ぜひチェックしてみてくださいね！（文科省:学校と地域でつくる学びの未来）

Q.鎌倉市立小坂小学校で企業と連携したプロジェクトを実行しようと考えた際に、校内の他教員の協力や単元・学習計画の点で、それぞれどのようなことに配慮して進めましたか？

1)学校管理職や同僚の先生の理解・協力など

協力してくれる同僚がいたらラッキー、くらいの気持ちで、実践を重ねて実績を積んでいく姿勢が大切だと思います。そのために、**JICAの研修などを活用して、全国から集まる研修参加者の先生方と協力し、新たなアイディアやエネルギーを得ることがお勧めです**。

2)学習単元・学習計画とのバランス

私は**教科の学習から総合的な学習につなげ、1年間を通して課題に取り組むパターンを取り入れています**。具体的な例を挙げると、4年生の社会科でゴミ問題について学んだ子どもたちが、学校給食の残量が多いことに気づきました。その後、食品ロスについて調べ学習を進め、10月から3月までの半年間を通して、学校給食の残量を減らすためにフードロス削減の活動を行いました。「フードロス00応援隊」というテーマで展開されたこの活動は、学校内から地域に広がり、消費者庁のホームページにも実践例として掲載されました。（こちら）

↑フードロス00応援隊新聞の一面

←難民問題について興味を持ち、調べ学習をした時の様子

調べ学習がきっかけで、企業が行っている、難民キャンプに子供服を送るプロジェクトに参加することに。写真は鎌倉市役所内に設置してもらった子供服回収ボックス。→

★鎌倉スクールコラボファンドについて、鎌倉市教育長がお話しされたオンラインセミナーの記事はこちらからご覧いただけます！

Q.企業と連携した学びによって、子どもたちにはどのような変化・変容が見られましたか？

国際開発センターの方をお招きしてパレスチナ問題についてお話しを伺ったことがきっかけで、当時4年生だった子どもたちは難民問題に興味を抱くようになりました。その後、難民キャンプに子供服を送る企業のプロジェクトに参加することになりました。活動開始から数ヶ月で約6000枚の子供服が集まりました。しかし、難民キャンプに送るためにたくさんの子供服を集めるという目標を達成した子どもたちから、**「難民の子どもたちに服を送っても、それで難民が減るわけじゃないし、難民そのものを減らさないと意味がない。」という声が上がりました**。これが大きなターニングポイントだったように思います。それから子どもたちは、難民の数を減らすために自分たちはどうしていくべきか、と答えを探し始めました。

同時期に、子どもたちと同い年くらいのグレタ・トゥーンベリさんの活動について話したことがきっかけで、子どもたちは気候変動問題にも興味を持ち、調べ始めました。そして、**「気候変動問題も難民問題も根底では全部つながっている。一人ひとりの行動が世界を変えていくのではないか。」という結論に達しました**。コロナ禍での休校や活動制限が続く中でも、地球の未来のために自分たちにできることは何か考え、気候変動をはじめとする様々な問題に対して活動を続けました。

卒業前には、COP26に参加した卒業生に話を聞き、気候変動について声をあげるということの大切さに気付きました。そして、大船駅と鎌倉駅の前で数回に渡り、地球が抱える様々な問題に対してマーチを行い、世間に訴えました。彼らは卒業後も、より良い社会を築くために自分たちにできることを探し続けており、小学校で学んだことを未来につないでいます。

↑気候変動や核兵器廃絶、難民、食品ロスなど、地球が抱える様々な問題に対してマーチを行った様子 。

Q.現在の鎌倉市立西鎌倉小学校では、企業や社会と連携した授業や活動は行っていますか？

現在の勤務校でも、これまで行ってきた実践の経験を活かし、総合的な学習の時間を使って子どもたちと様々な活動を行っています。新しい取り組みとしては、地元の原爆被爆者の会の方と連携し、4年生の「地球のみんなに笑顔を届け隊」の平和に向けての取り組みを、市役所主催の「へいわの学校」の場で発表しました。また、今年度は6年生が「地球の平和を守り隊」をテーマに、毎朝グータッチをしながら挨拶をするというユニークな取り組みをしています。世界を平和にするためにはまずは身近な人と仲良くなろうと、グータッチに平和の祈りを込めています。

Q.学校の先生方にオススメしたいJICAの研修や教材を教えてください。

最も良かったのは**国際理解教育/開発教育指導者研修に参加したこと**です。1年間の実践を通して自身の実力が大きく向上し、また同じ志を持つ先生方と意見交換をしたり、夢を語り合ったりして、意識を高めることができました。
また、**JICA地球ひろばの体験ゾーン（展示・相談スペース）もおすすめ**です。JICA海外協力隊参加者の体験談や展示などのプログラムも充実しています。子ども兵士が使っている機関銃や、紛争で使われる地雷などを実際に手に取って触ることもできるので、ただの知識としてではなく、実体験を通じて考えを深める機会となるかと思います。

JICAの研修や講座をご活用ください！

◆国際理解教育／開発教育指導者研修
→指導案の作成と授業実践を通じて、専門性を高める研修です。

◆JICA地球ひろば　展示・相談スペース
→世界が直面する多くの課題を、体験型展示で学ぶことができます。

◆国際協力出前講座
→ JICA海外協力隊などの体験談や、JICAスタッフ、JICA長期研修員の講義を聞くことができます。

「難民に子供服を送る」というプロジェクトから、子どもたちがどんどん学びを深め、次の課題に向けて自発的に行動していく様子こそが、企業や社会と連携する教育活動の真価だと感じました。地球の未来を担う子どもたちが、地球が抱える問題を身近に感じて解決のための行動に移すことは、社会全体にもプラスの影響をもたらすのではないでしょうか。
みなさんもぜひ一歩踏み出してみてください！